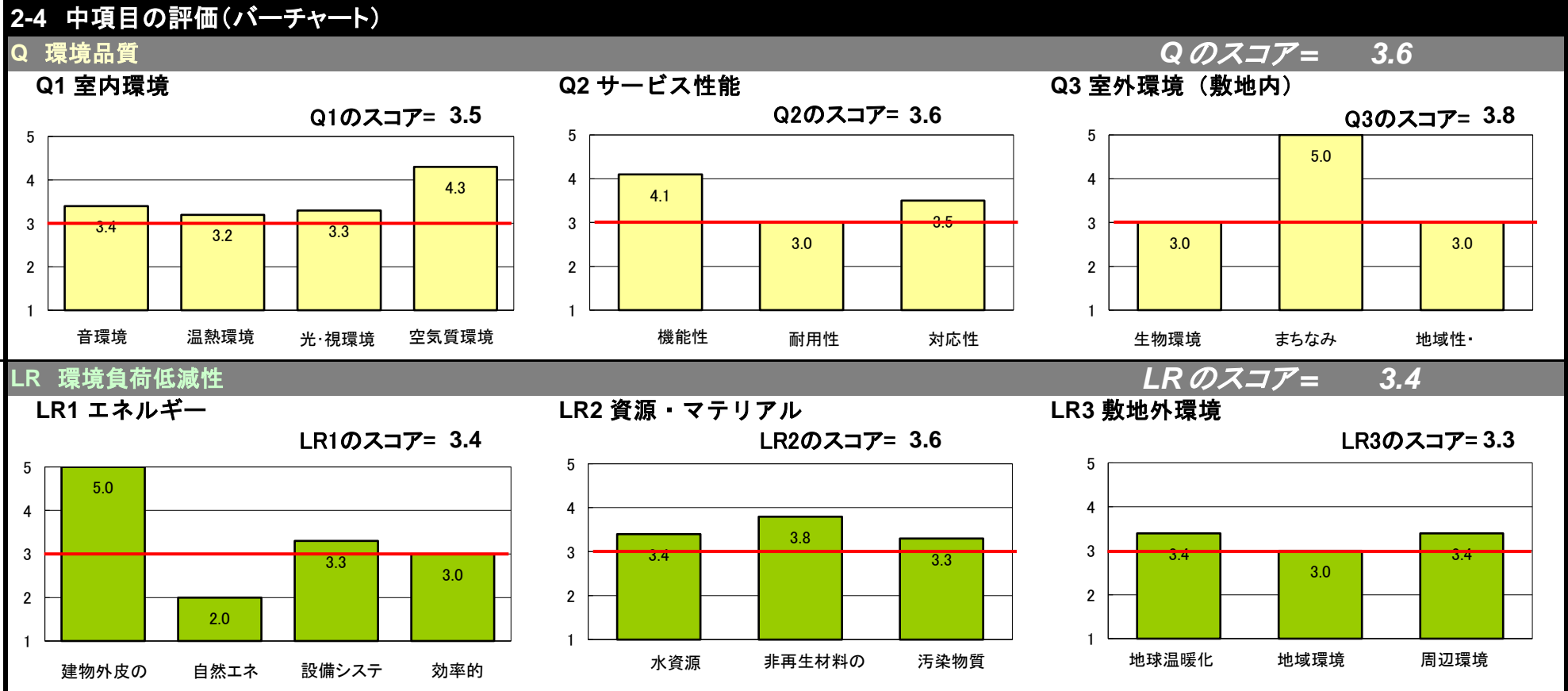
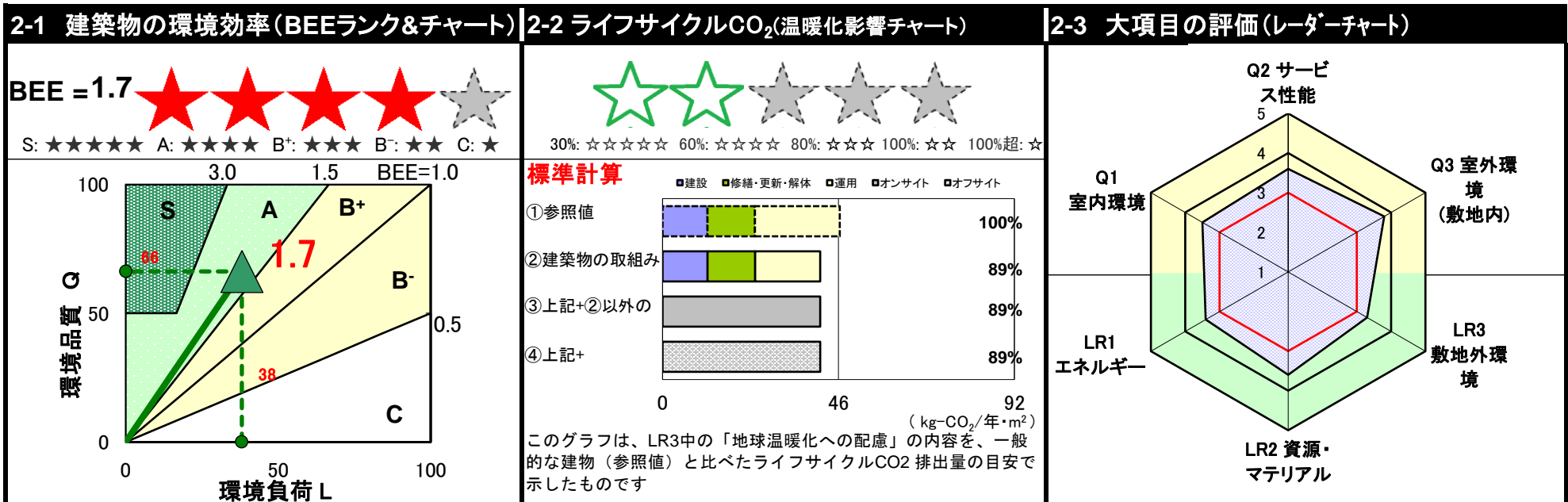


CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	滝川中学校・高等学校大規模整備計画	階数	地上3F
建設地	兵庫県神戸市須磨区宝田町2丁目1番	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域区分	平均居住人員	1,380 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2023年11月27日
敷地面積	16,646 m ²	作成者	石坂 臨
建築面積	2,373 m ²	確認日	2023年12月12日
延床面積	5,132 m ²	確認者	山岡 郁也



3 CASBEE神戸の重要項目		
<p>バリアフリー計画</p> <p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>4.0</p>	<p>建築物の耐震性等</p> <p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>2.6</p>	<p>まちなみ・景観への配慮</p> <p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>5.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>バリアフリー条例の基準を満足。</p>	<p>配慮の概要</p>	<p>配慮の概要</p> <p>敷地境界線から後退して配置し、周囲に圧迫感を与えないよう配慮。道路境界線に沿って、緑地帯を設置。既存樹木を活用した敷地内緑化。視点場からの良好な景観の検証を実施し、良好な景観を形成。</p>
<p>その他の配慮事項</p> <p>0</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
滝川中学校・高等学校大規模整備計画

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.6
Q1 室内環境					0.40				3.5
1 音環境				3.4	0.15	-	-		3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.7	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.30	-	-		
2 界壁遮音性能		Dr=40程度		4.0	0.30	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr=35程度		5.0	0.20	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	-	-		
1.3 吸音		吸音材採用面数2、床:タイルカーペット、天井:木毛セメント版		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.2	0.35	-	-		3.2
2.1 室温制御				3.8	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.60	-	-		
2 外皮性能		窓/SC値:0.35程度、窓/U値:3.21程度、外壁/U値:0.78程度		5.0	0.40	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				2.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-		3.3
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-		
1 昼光率		昼光率:U = 15.9%程度		5.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				4.3	0.25	-	-		4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		内装材にF☆☆☆☆の建築材料、VOC基準適合品を使用		5.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量		建築基準法および学校環境衛生基準の1.2倍を満たす換気量確保		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.6
1 機能性				4.1	0.40	-	-		4.1
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満足		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高:2.7m以上		5.0	0.50	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画		コンセプト通りの計画、照明と内装計画を一体化、パースによる事前検討		5.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能の確保をするための取組み		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット、長尺塩ビシート(20年)		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(SGP-VA≒VLP):B、排水(VP):B、冷媒(CUP):C		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重2900N/m ²	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上材、構造部材を傷めることなく配線の更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		開口の位置・形状を工夫し、景観と同時に近隣にも配慮した意匠	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		見通しの良いメッシュフェンスを使用、設計プロセスに建物利用者が参加	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.71程度	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m =0.77程度	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		主要水栓等に加えて省水型機器を過半数以上に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床材/フロアリューム、木毛セメント板/TSボード、岩綿吸音板/ソーラトン	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、再利用できるユニット部材	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP<0、1<GWP<50発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ種類・量推計、ゴミストック確保、ゴミ分別容器設置、ビン・缶減容化	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.4	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.60	-	-	
2	砂塵の抑制	校庭が芝生	5.0	0.20	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満足、屋外広告物の設置無	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	